

## 北山城跡 第2次 (No, 11)

位置情報URL : <http://www.gis.pref.mie.lg.jp/mmm/index.html?z=64&l=35.04694907407407,136.58115536723164>

○ 遺構検出・掘削が進行しています。



北山城跡の調査は遺構検出、掘削が進行中です。

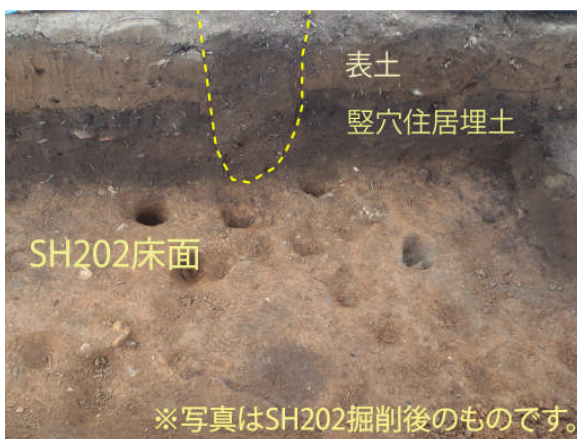
さて、遺構からは土器などの遺物の他にも様々なものが出てきます。もともと林だったこともあり、ミミズやセミの幼虫が出てくるのはしょっちゅうのことです。このセミは地上に出たところ木がなかったので仕方なく地区杭で羽化しています。



左は調査区の壁ぎわから検出された竪穴住居です。SH202と名付けました。

竪穴住居の掘削に先立ち、遺構内にある穴や遺構にかかった穴を掘っていきます。真ん中の穴(左の写真の○で囲ったところ)も掘削していきます。

誤って床面を掘り抜くなど、遺構を破壊しないように注意が必要です。



発掘調査をしていると遺構としてとらえられる穴以外にもいろいろな穴が見つかります。

このSH202の真ん中の穴は調査区の壁にかかっており、断面をみると、遺構の埋土、さらにはその上の表土を切って掘られていることから、かなり新しい時代になってから掘られた穴であることと考えられます。



案の定、掘り進めていくとビール缶が出土しました。これによってこの穴は現代のものであることが明らかになりました。このような現代に掘られた穴などのことを私たちは「攪乱（かくらん）」とよんでいます。攪乱は遺構にかかっていると遺構を破壊してしまうため、大切な情報がうしなわれてしまうことにもなりますが、場合によっては調査を進めていく上でヒントを与えてくれることもあります。



たとえば、これは別の竪穴住居にかかっていた攪乱を掘削したあとの様子です。遺構そのものの土層断面が見えており、観察によって、遺構を掘削するときの深さの目安がついたほか、遺構断面の形状も知ることができました。

このように攪乱や、調査区の壁などあらゆるものを利用して遺構に関する情報を得ながら調査を進めていきます。ただ掘削するのではなく、常に情報を得てまとめながら調査を進めることで、遺跡全体の様相や各遺構の特定をより容易にしていくことが可能となります。

今後も遺構掘削の様子をお伝えしていきますのでご期待ください。

**【問い合わせ先】**

三重県埋蔵文化財センター 調査研究3課 四日市整理所

〒512-8064 三重県四日市市伊坂町126-1

電話番号:059-363-3195/ファックス:059-363-3196

E-mail:[maibun@pref.mie.jp](mailto:maibun@pref.mie.jp)

担当:勝山孝文・矢田陽・宮原佑治